

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和5年度		
事業番号	61	事業名	里山保全管理活用事業 (大事業名) 緑化振興事業		担当課		みどりの推進課		
					予算区分（款-項-目-中事業）		5-1-5-6 里山保全管理活用事業		
					決算書ページ		167 ~ 一般		
I 基本情報	総合計画	基本目標	3	みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物		事業開始の背景	手入れや管理が行き届かず放置された山林においては、廃棄物の不法投棄、倒木に伴う周辺への損害等周辺地域への悪影響が懸念されている。そのためこれらの山林を適切に管理できる仕組みを整え、里山を保全・活用し、市民が快適、安全に生活できることが求められている。		
		政策	1	万博理念を継承した自然との共生					
		施策	(1)	豊かな自然環境の保全・活用					
						市民・民間事業者との連携協働の可能性		民間事業者とのみ協働可	
	その他	開始年度		平成27年度					
		終了予定年度		☐ 年度 ☒ 未定					
		根拠法令等		無し					
		関連計画		長久手市里山プラン、長久手市里山基本計画、みどりの推進計画、緑の基本計画					
	事業の概要・目的	アウトプット（詳細はⅡへ）					アウトカム（詳細はⅢへ）		
		①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)	
【対象】 ☒ 市民 ☐ 事業者 ☐ 職員 ☐ その他 対象の数： 60,000 【事業内容】 「木望の森」を中心とした東山地区周辺の里山整備を行い、地域資源としての里山林の価値の向上に取り組めます。		...→ 長久手市里山基本計画の市民協働プロジェクトの内容に基づいたイベントを、地元団体や近隣大学との協働により開催した結果、団体の活動に興味を持つ市民が増え、活動団体の構成者数が増える。		→ 里山保全事業イベントの参加人数が増加 (成果指標名) 里山保全事業イベントの参加人数		→ 里山プランに位置づけられた地区が市民が愛着をもち楽しさを発見することができる『行ってみたい「里山」』の姿になり、さらなる里山林の価値及び愛着の向上・周知を図るため、市民が自主的にイベントを企画したり保全活動に参加する。			
				大事業共通					

[illegible]

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標										
		里山保全事業イベントの参加人数	人	－ 年度	▶	4 年度	▶	【現状】 5 年度	▶	7 年度	▶	－ 年度		
				－	▶	186	▶	239	▶	258	▶	－		
		成果達成状況				指標目標値の根拠								
		A	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている				R4年度実績として、8イベントで186人の参加があり、1イベント当たり24人となる。毎年1イベントずつ増やしていく。長久手市里山基本計画の目標年次である、令和7年度を目標年次とした。							
	評価の理由、分析													
	令和5年度の目標が210人に対し、239人の市民参加があった。今後も継続して市民参加を促し、里山保全の意識高揚を図っていく。													
	加える変化（ACTION）	今後の方向性（3年～5年先）		今後の方向性の理由										
		B	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止		東山地区の木望の森について、自由に出入りが出来る場所では無く、十分な活用がされていない状況であるため、新たな活用方針を見いだす必要がある。									
		改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)												
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度			
1		里山保全事業委託（木望の森エリア）	☐ 拡充 ☒ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止	事業を隣接している平成こども塾へ事業を移し、平成こども塾のプレーパーク事業と統合し、プログラム等にて活用することが望ましいと考える。ながくて里山クラブが整備を行った木望の森について、子ども達が立ち入り、活用することで市内市民や子ども達が里山に触れ、学ぶ機会が増える。また、ながくて里山クラブにおいても、整備を行った場所が利活用されることで活動の活性化に繋がると考える。								R7		

IV 費用	令和7年度予算の方向性（PLAN）	R7年度の費用（R6年度比）		3 年 間 の 推 移	(単位：千円)	R6(2024)年度	R5(2023)年度		R4(2022)年度		
		A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止		事業費	予算	予算	決算	予算	決算	
		理由			特定財源	合計額					
		事業移管のため	(内 国費)								
			(内 県費)								
			(内 諸収入)								
			(内 その他)								
					一般財源						
		積算額			R6年度予算の内訳 <細々節名、 予算額、（R5年度予算額）>						